

# Kansai Economic Insight Monthly

2017/9/26

Vol.53 August/September

・ APIR “Kansai Economic Insight Monthly”は、関西経済とそれに関連する中国経済の動向に関する分析レポートです。

・ レポート公開時期は毎月第 4 週火曜日を予定しています。

・ 執筆者は、稲田義久(甲南大学教授、APIR 数量経済分析センター長)、木下祐輔(APIR 調査役)・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet (各 APIR 研究員)及び豊原法彦(関西学院大学教授)です。

・ 本レポートにおける「関西」は、原則として滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県の 2 府 4 県です。統計出所を発表している省庁などが「近畿」としている場合も「関西」に統一しています。

## 目次

要旨	1
関西経済のトレンドと CI, CLI	2
景気の現況	3
関空モニター	9
中国景気モニター	10
主要月次統計	13
Release Calendar	14

## 要旨

### -景気は足下、先行きともに緩やかな回復が続く\*-

- ✓ 7月の鉱工業生産指数は2カ月ぶりに前月から下落し、4-6月平均と比べても下落した。近畿経済産業局は「総じてみれば、生産は横ばい傾向で推移している」と判断している。
- ✓ 8月の貿易収支は7カ月連続の黒字。アジア向けの科学光学機器等の輸出額の増加が半導体等電子部品等の輸入額の増加を上回ったことから、前年同月比でも黒字幅は拡大した。
- ✓ 8月の消費者態度指数は前月比横ばい。一方、景気ウォッチャー現状判断DIは4カ月ぶりの悪化。インバウンド消費や猛暑による季節商材の好調も、依然消費者の節約志向は強く、全体は低下。インバウンド消費への期待は高いものの、海外リスクへの懸念から、先行き判断DIは2カ月ぶりの小幅上昇。
- ✓ 6月の関西2府4県の現金給与総額は4カ月連続で増加。「関西コア」賃金指数も2カ月連続の改善。賃金の伸びが今後も定着するかどうか、注視が必要であろう。
- ✓ 7月の大型小売店販売額は2カ月ぶりの減少。百貨店ではインバウンド需要が好調だったが、バーゲン前倒しの反動により売上が減少した。スーパーでは鮮魚と農産物が苦戦した。
- ✓ 7月の新設住宅着工戸数は2カ月連続の減少。利用関係別にみると、持家は5カ月連続、貸家は3カ月ぶりの減少。一方、分譲は6カ月ぶりの増加となった。
- ✓ 7月の有効求人倍率は6カ月連続の改善。新規求人倍率は2カ月ぶりの上昇となり、労働需給が引き締まった状態が続く。完全失業率は横ばいで、雇用情勢は依然好調である。
- ✓ 8月の公共工事請負金額は3カ月連続の減少。季節調整値で見ると、2カ月連続の増加となったものの、今後補正予算の効果剥落が懸念される。
- ✓ 8月の関空を利用した訪日外客数は61万6,020人で6カ月連続の増加。5カ月連続で2桁増が続いている。
- ✓ 中国8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は2カ月ぶりに前月から改善し、13カ月連続で景気判断の分岐点である50を上回った。一方、不動産市場は低調で、主要70都市のうち不動産価格が上昇したのは46都市で、前月から10都市減少した。

※景気の基調判断はAPIR(豊原法彦関西学院大学教授)開発の関西景気動向指数(CI, CLI)に基づいている。  
関西全体のCI, 試作CLIの推移は2ページを参照。

【関西経済のトレンド】

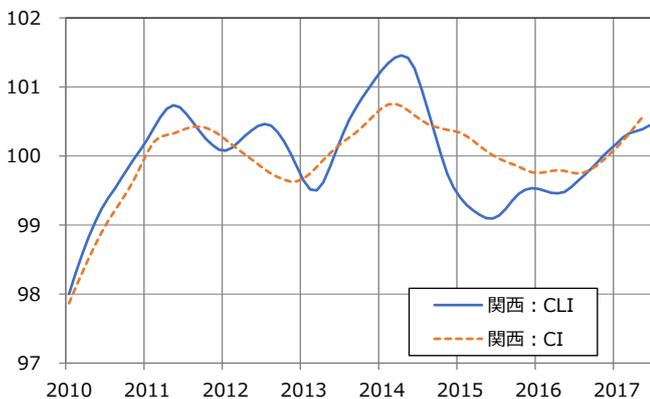
	2016年							2017年						
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	
生産	↗	↗	↘	↗	↗	↘	↗	↘	↗	↘	↗	↘		
貿易	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↗	
センチメント	↘	↘	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↗	↗	↘	↘	
消費	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘		
住宅	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘		
雇用	↘	↗	↗	↗	↗	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↗		
公共工事	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↗	↘	↘	↘	
中国	↘	↘	↘	↗	↗	↗	↗	↗	↘	↘	↘	↘	↘	

(\*トレンドの判断基準)

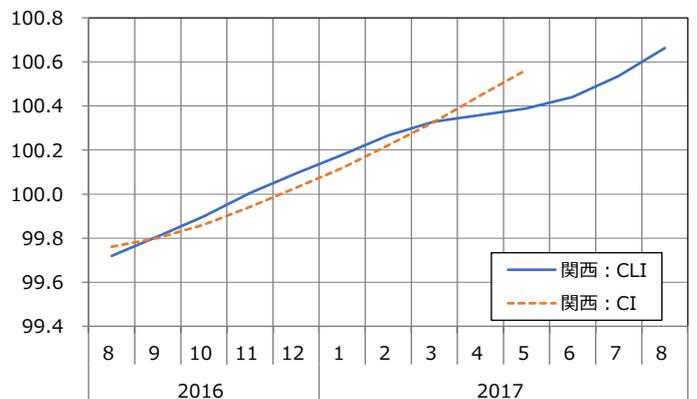
- ・**生産**: 近畿経済産業局『近畿地域拡大工業生産動向』生産指数(季節調整値)が前月比+0.5%以上であれば上向き、同-0.5%未満であれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**貿易**: 大阪税関『貿易統計』の近畿圏貿易収支(入出超額)前年同月から500億円以上の改善は上向き、同500億円以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**センチメント**: 内閣府『景気ウォッチャー調査』の近畿現状判断(方向性)DIが前月比で1ポイント以上の改善は上向き、1ポイント以上の悪化は下向き、それ以外は横ばい。
- ・**消費**: 近畿経済産業局『大型小売店販売状況』(全店ベース)が前年同月比で1%以上増加していれば上向き、同1%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**住宅**: 国土交通省『住宅着工統計』新設住宅着工戸数が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。
- ・**雇用**: 厚生労働省『一般職業紹介状況』有効求人倍率(季節調整値)が前月比で0.01ポイント以上の改善は上向き、変化がなければ横ばい、0.01ポイント以上の悪化は下向きとする。
- ・**公共工事**: 西日本建設業保証株式会社『公共工事前払金保証統計』公共工事請負金額が前年同月比で5%以上増加していれば上向き、同5%以上悪化していれば下向き、それ以外は横ばい。

【関西の景気動向指数(CI一致指数・試作 CLI)の推移】

CI一致指数・試作 CLI の推移(2010年1月~2017年8月)



直近1年間の CI・CLI の推移(2016年8月~2017年8月)



## 【鉱工業生産動向】

### (1) 関西の生産動向

関西 7 月の鉱工業生産動向(速報値：季節調整済、2010年=100)によれば、生産は107.1で、前月比-0.9%と2カ月ぶりの下落。出荷は104.0で同-1.9%と2カ月ぶりの下落。在庫は122.9で同+0.7%と2カ月ぶりに上昇した。なお、生産と強い関係がある実質輸出(季節調整済、2010年=100)は105.8で、7月は前月比-0.1%と2カ月ぶりに下落した。

業種別に生産指数をみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比-6.5%、2カ月連続)、電子部品・デバイス(同-7.5%、2カ月ぶり)、金属製品(前月比-6.6%、2カ月ぶり)が減産となった。一方、化学工業(除、医薬品)(前月比+6.8%、2カ月連続)、電気機械(同+2.7%、2カ月連続)、プラスチック製品(同+1.9%、3カ月連続)、石油・石炭製品(同+9.6%、3カ月ぶり)等が増産となった。

結果、7月実績(生産)は4-6月平均比-0.8%下落した。近畿経済産業局は7月の基調判断を「総じてみれば、生産は横ばい傾向で推移している」と下方修正した。

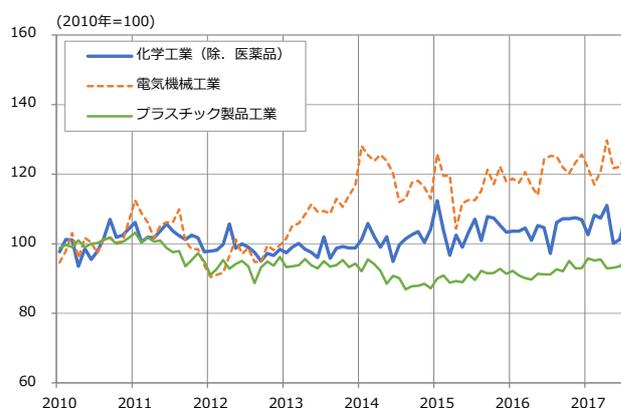
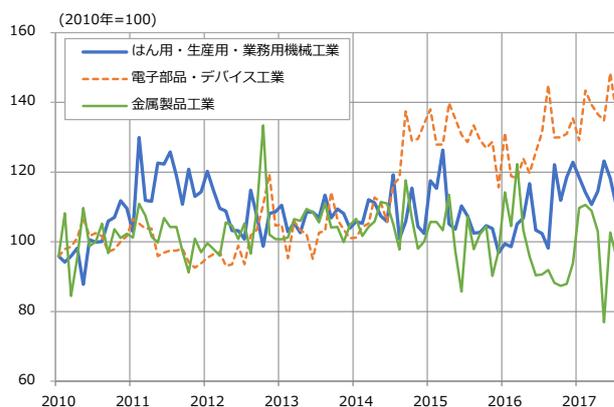
関西の鉱工業生産動向の推移(2010年1月～2017年7月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

関西の業種別生産指数の推移(2010年1月～2017年7月)



(注) 福井県を含む。

(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」

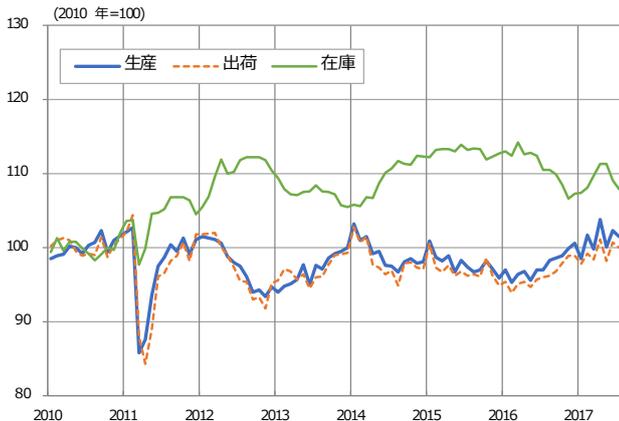
### (2) 全国の生産動向

全国 7 月の鉱工業指数(確報値：季節調整済、2010年=100)の動向を見ると、生産は101.5となり前月比-0.8%と2カ月ぶりの下落。出荷は100.0で同-0.7%と2カ月ぶりの下落。在庫は107.9となり、同-1.1%と2カ月連続の下落となった。

業種別にみると、はん用・生産用・業務用機械(前月比-2.5%)、電気機械(同-2.8%)、情報通信機械(同-3.6%)等(は減産となった。一方、電子部品・デバイス(同+4.2%)、石油・石炭製品(同+1.4%)、窯業・土石製品(同+0.7%)等が増産となった。

製造工業生産予測調査によると、8月は前月比+6.0%の増産、9月は同-3.1%と減産が予測されている。予測が実現すれば、7-9月期の生産は前期比+2.3%となり、前期より加速しよう。

全国の鉱工業指数の推移(2010年1月～2017年7月)



(出所) 近畿経済産業局「鉱工業生産動向」, 経済産業省「鉱工業指数」

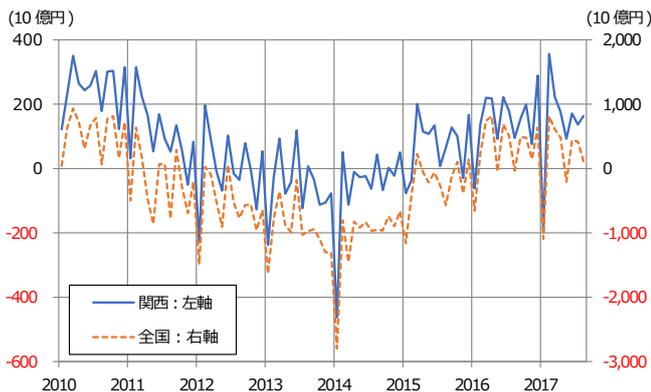
**【貿易動向】**

(1) 純輸出

貿易概況(速報値)によれば、関西8月の貿易収支は+1,630億円と7カ月連続の黒字となった。黒字幅も、前年同月(+951億円)と比べて+71.4%拡大した。アジア(含中国)向けの科学光学機器を始めとする輸出額の増加が、半導体等電子部品等の輸入額の増加を上回ったことによる。

また、全国の貿易収支(速報値)は+1,136億円で、3カ月連続の黒字となったものの、黒字幅は縮小している。

関西・全国の貿易収支の推移(2010年1月～2017年8月)



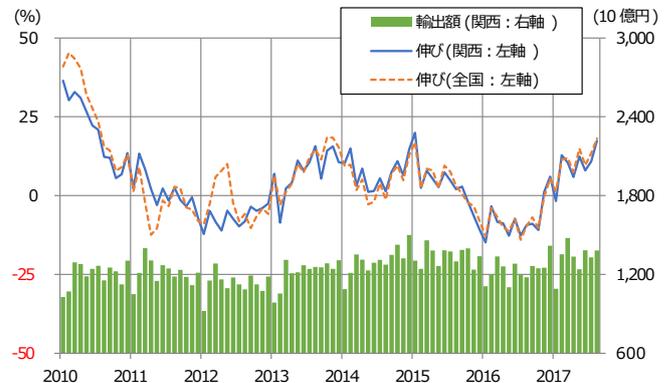
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(2) 輸出

関西8月の輸出額(速報値)は1兆3,822億円で前年同月比+17.4%と7カ月連続の増加。財別に見れば、科学光学機器、半導体等電子部品等が増加した。

全国8月の輸出額(速報値)は6兆2,780億円で、前年同月比+18.1%と9カ月連続の増加。財別に見れば、自動車、半導体等電子部品、自動車の部分品等が増加した。

関西・全国の輸出の推移(2010年1月～2017年8月)



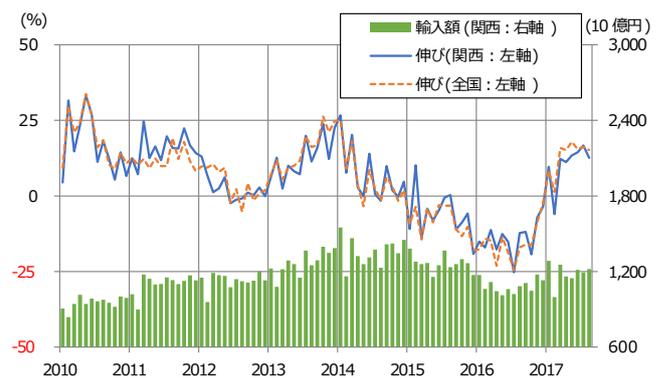
(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(3) 輸入

関西8月の輸入額(速報値)は1兆2,192億円、伸びは前年同月比+12.6%と6カ月連続の増加。財別に見れば、半導体等電子部品、がん具及び遊戯用具等が増加した。

全国8月の輸入額(速報値)は6兆1,644億円で、前年同月比+15.2%と8カ月連続の増加。財別に見れば、石炭、液化天然ガス、原油等が増加した。

関西・全国の輸入の推移(2010年1月～2017年8月)



(出所) 大阪税関調査統計課「大阪税関貿易速報資料：近畿圏」

(4) 関西の地域別貿易

関西8月の貿易収支を地域別に見ると、対アジア(含中国)貿易収支は+2,611億円と7カ月連続の黒字となり、黒字幅は前年同月比+44.4%拡大した。輸出は7カ月連続の増加

(同+17.8%)。財別に見れば、科学光学機器、半導体等電子部品等が増加した。輸入は6カ月連続の増加(同+10.1%)。財別に見ると、半導体等電子部品、がん具及び遊戯用具等が増加した。うち、対中貿易収支は-18億円と6カ月連続の赤字となった。輸出は10カ月連続の増加(前年同月比+29.6%)。財別に見ると、科学光学機器、半導体等電子部品等が増加した。輸入は6カ月連続の増加(同+10.7%)。財別に見ると、がん具及び遊戯用具、音響映像機器(含部品)等が増加した。

対米貿易収支は+672億円の黒字となり、伸びは3カ月ぶりの増加(前年同月比+10.3%)。うち、輸出は4カ月連続の増加(同+17.3%)。財別に見れば、遊戯用具、建設用・鉱山用機械等が増加した。輸入は9カ月連続の増加(同+21.9%)。財別に見れば、無機化合物、半導体等製造装置が増加した。

対EU貿易収支は-153億円と5カ月連続の赤字となった。輸出は4カ月連続の増加(前年同月比+16.4%)。財別に見れば、有機化合物、遊戯用具等が増加した。輸入は6カ月連続の増加(同+15.4%)。財別に見れば、たばこ、非鉄金属等が増加した。

## 【消費者センチメント】

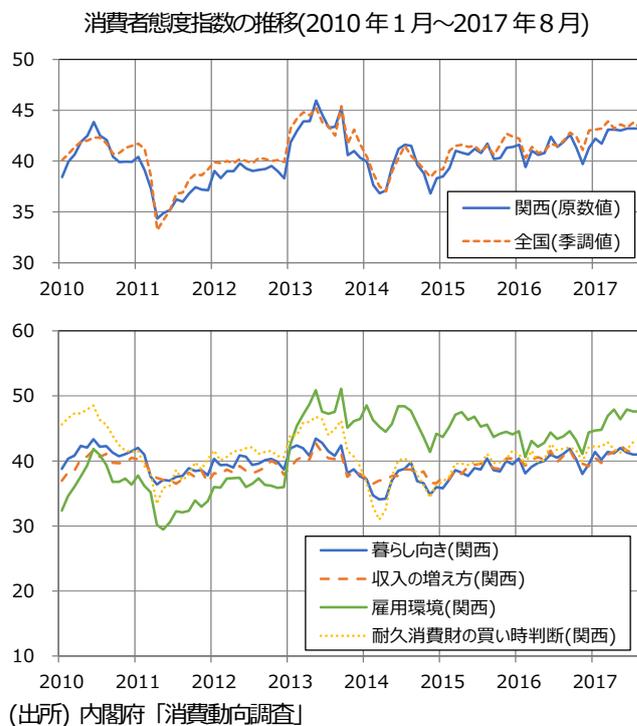
### (1) 消費者態度指数の動向

関西の8月の消費者態度指数(原数値)は43.2と2カ月連続で前月比横ばいとなった。一方、全国(季節調整値)は同-0.5ポイント低下し43.3となり、2カ月ぶりに悪化した。

関西の同指数構成項目を見ると、「収入の増え方」のみ前月比+0.6ポイント上昇した(3カ月ぶり)。一方、「暮らし向き」「雇用環境」は同横ばい、「耐久消費財の買い時判断」は-0.4ポイント下落した(3カ月ぶり)。

また、全国の同指数は4項目全てが悪化した。項目別に見ると、「雇用環境」が前月比-0.7ポイント、「耐久消費財の買い時判断」「暮らし向き」が同-0.6ポイント、「収入の増え方」が同-0.4ポイント低下した。東北や北陸などでの長雨による野菜価格の高騰など生活全般への懸念が強まったこ

と等が消費者心理の悪化に寄与したとみられる。内閣府は消費者心理の基調判断を「持ち直している」から「ほぼ横ばいとなっている」に9カ月ぶりに下方修正した。

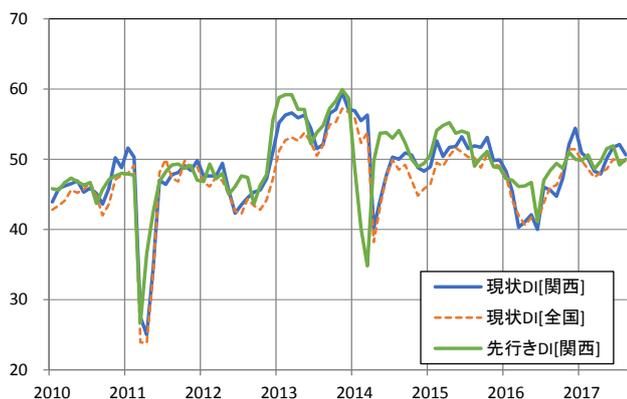


### (2) 景気ウォッチャー指数の動向

関西の8月の景気ウォッチャー現状判断DI(季節調整値)は50.6と前月比-1.5ポイント低下。景況感の良し悪しの分かれ目となる50を4カ月連続で上回ったものの、4カ月ぶりの悪化となった。関西では、インバウンド消費や猛暑によりエアコンや飲料を始めとする季節商材の売れ行きが好調だった一方で、依然消費者の節約志向が強いことなどから、全体としては低下した。一方、全国の同指数は49.7で同横ばいであった。

また、先行き判断DI(季節調整値)は、関西では50.0と前月比+0.8ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善。好調なインバウンド消費への期待は依然高いものの、北朝鮮情勢などの海外リスクを懸念する声も多く、小幅の上昇にとどまったと考えられる。全国は51.1と同+0.8ポイント上昇し、こちらも2カ月ぶりの改善が見込まれている。

景気ウォッチャー調査の推移(2010年1月～2017年8月)



(出所) 内閣府「景気ウォッチャー調査」

## 【所得・個人消費・住宅】

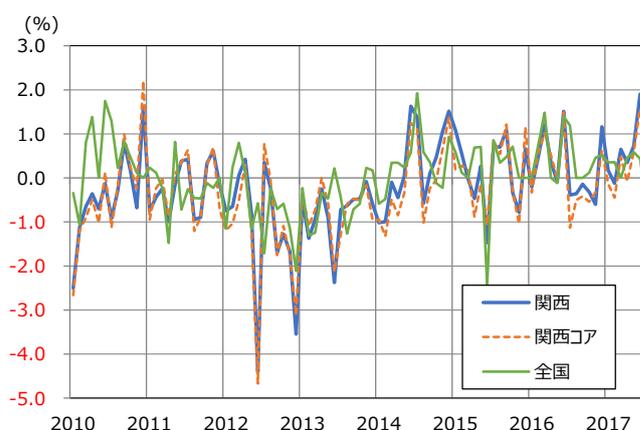
### (1) 現金給与総額

6月の関西2府4県の現金給与総額(APIR推計)は44万617円で前年同月比+1.9%となり、4カ月連続の増加。府県別では、奈良県が同+10.2%(7カ月連続)、滋賀県が同+2.7%(7カ月連続)、兵庫県が同+2.4%(9カ月連続)、大阪府が同+1.7%(12カ月ぶり)とそれぞれ増加した。一方、和歌山県が同-0.7%(5カ月ぶり)、京都府が同-0.4%(2カ月ぶり)と減少した。

また、6月の京都・大阪・兵庫の加重平均をとった「関西コア」賃金指数(APIR推計)は同+1.6%増加し、2カ月連続の改善。賃金の伸びが今後も定着するかどうか、注視が必要であろう。

7月の全国の現金給与総額(確報値)をみると、前年同月比-0.6%減少し、14カ月ぶりの悪化。内訳をみると、所定内給与は同+0.5%と4カ月連続のプラス。所定外給与は同+0.2%と2カ月ぶりのプラス。特別給与は同-3.1%と6カ月ぶりのマイナスであった。今後の動向に注意が必要である。現金給与総額から物価上昇分(帰属家賃を除く総合)を除いた実質賃金は、前年同月比-1.1%と2カ月連続のマイナスであった。

現金給与総額の推移(2010年1月～2017年7月)



(注)関西・関西コア(京都、大阪、兵庫)はAPIR推計値。現金給与総額を当該常用労働者数(2011年平均)で加重平均。

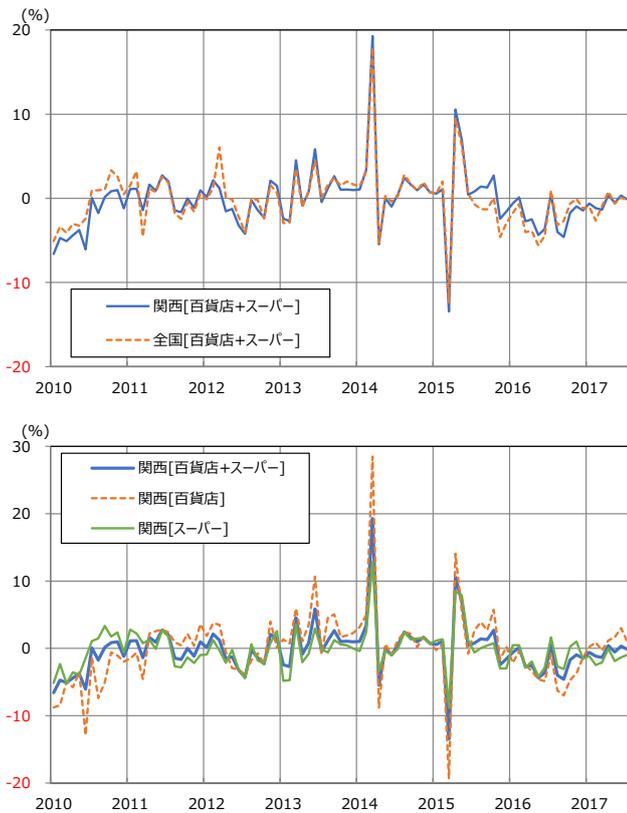
(出所)厚生労働省「毎月勤労統計調査」

### (2) 大型小売店販売額

関西7月の大型小売店(百貨店+スーパー)の販売額(全店ベース)は3,391億円となり、前年同月比-0.1%と2カ月ぶりのマイナス。百貨店は同+0.9%上昇し、4カ月連続のプラス。バーゲンの前倒しの反動が売上の減少をもたらしたものの、インバウンド需要が好調に推移している。なお、関西の百貨店免税売上(日銀大阪支店)によると、7月は前年同月比+89.8%(前月+69.5%)と8カ月連続で2桁の伸びを示している。一方、スーパーは同-0.9%と8カ月連続のマイナス。アニサキス(寄生虫)の影響で鮮魚が、単価下落の影響で農産物が、それぞれ苦戦した。

全国7月の大型小売店販売額(全店ベース)は1兆7,179億円と、前年同月比-0.2%と2カ月ぶりのマイナスであった。百貨店は同-2.5%と2カ月ぶりのマイナス。一方、スーパーは同+1.1%と3カ月ぶりのプラス。また、小売業販売額の季節調整済前月比後方3カ月移動平均を見ると、前月比-0.1%の低下となった。これを受け、経済産業省は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」と前月から据え置いた。

大型小売店販売額の推移(2010年1月~2017年7月)



(注) 福井県を含む。(出所) 経済産業省「商業動態統計」

### (3) 新設住宅着工の動向

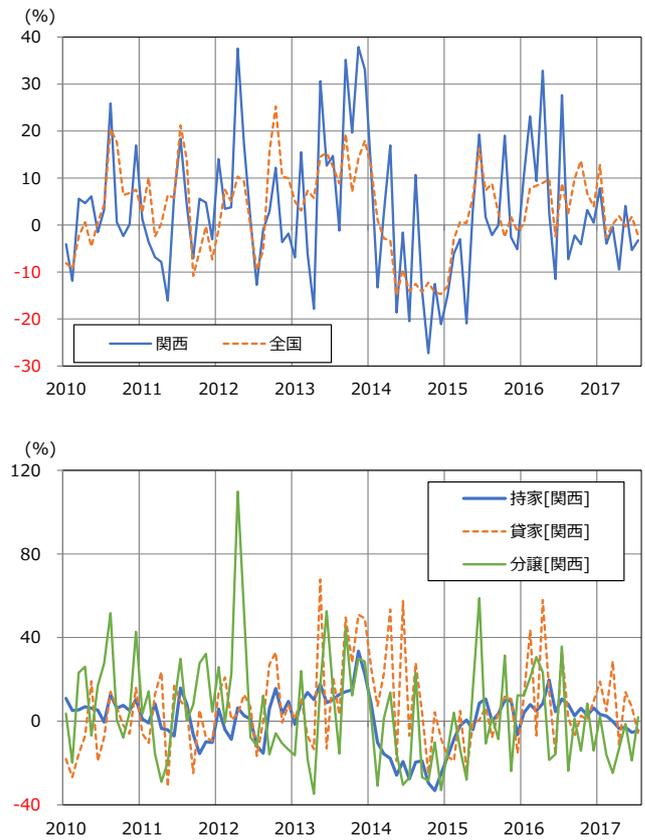
関西7月の新設住宅着工戸数は12,601戸と前年同月比-3.3%となり、2カ月連続の減少となった。全国も83,234戸と同-2.3%と2カ月ぶりの減少。

関西の住宅着工戸数を利用関係別にみると、持家は3,115戸で前年同月比-4.5%と5カ月連続の減少。貸家は5,229戸で同-6.0%と3カ月ぶりの減少となった。一方、分譲は4,245戸と同+1.9%増加し、6カ月ぶりの増加であった。全国は、持家は25,370戸で前年同月比-5.7%と2カ月連続の減少。貸家は36,365戸で同-3.7%とこちらも2カ月連続の減少。一方、分譲は21,037戸と同+5.7%増加し、2カ月連続の増加であった。前年の反動から持家が減少したことに加え、貸家も相続税の節税を目的としたアパート建設に一服感が見られる。

関西8月のマンション契約率は、79.8%(季節調整値: APIR 推計)と、前月から+9.6%ポイント大幅に増加した。

また、好調の指標となる70%を11カ月連続で上回った。一方、首都圏は69.8%(季節調整値: APIR 推計)と前月から+2.4%ポイント改善したが、3カ月連続で70%を下回った。

新設住宅着工戸数の推移(2010年1月~2017年7月)



(出所) 国土交通省「住宅着工統計」

### 【雇用動向】

#### (1) 求人倍率の動向

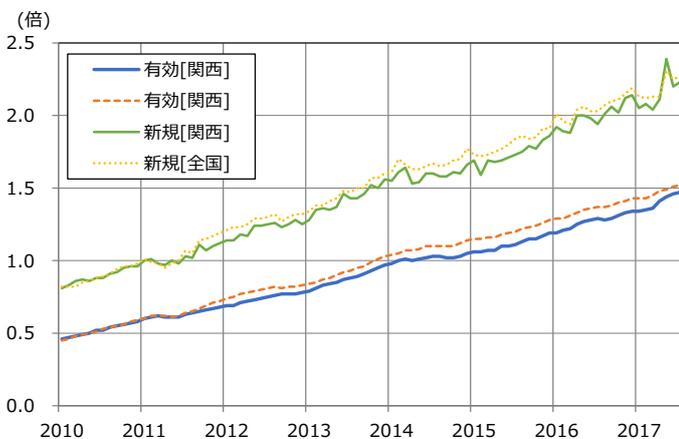
関西7月の有効求人倍率は、1.47倍で前月比+0.01ポイント小幅上昇し、6カ月連続の改善となり、高水準が続いている。内訳をみると、有効求職者数が前月比横ばいの中、有効求人数が+0.7%と5カ月連続で増加しており、企業の求人意欲の高さが見られる。また、全国は1.52倍で同+0.01ポイント小幅上昇し、5カ月連続の改善。1974年2月(1.53倍)以来の高水準が続いている。

関西の有効求人倍率を府県別にみると、奈良県が前月比+0.03ポイント、大阪府で同+0.02ポイント、京都府で同

+0.01 ポイントそれぞれ上昇した。一方、滋賀県、兵庫県、和歌山県では同横ばいであった。

関西7月の新規求人倍率は、2.23倍で前月比+0.03ポイントと2カ月ぶりの上昇となった。新規求職者数の減少と新規求人数の増加が見られることから、依然労働需給が引き締まった状態が続いており、雇用情勢は好調であるといえよう。また、全国は2.27倍で同+0.02ポイントとこちらも2カ月ぶりの上昇であった。

求人倍率の推移(2010年1月~2017年7月)



(出所) 厚生労働省「一般職業紹介状況」(下表も同様)

関西2府4県有効求人倍率(2017年6-7月)

	全国	関西	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県
7月	1.20	1.11	1.05	1.15	1.20	0.98	1.03	1.03
6月	1.19	1.10	1.06	1.13	1.19	0.96	1.02	1.04

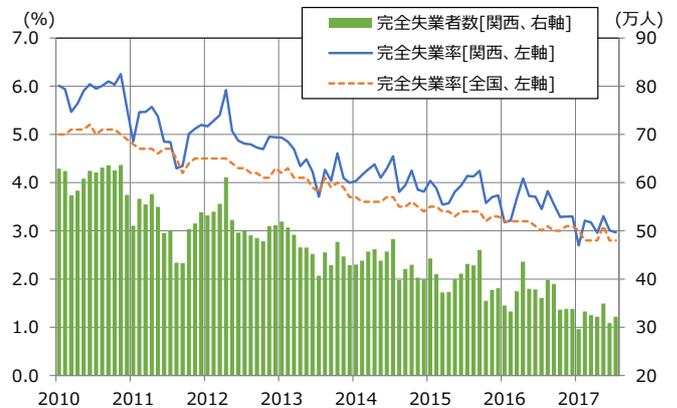
## (2) 完全失業率の推移

7月の関西の完全失業率(季節調整値: APIR 推計)は3.0%と前月比横ばい。前月に続き、労働力人口の増加に加え、雇用者数が増加していることから、好調な雇用環境を背景に労働参加率の上昇が続いている。また、関西の完全失業者数(季節調整値: APIR 推計)は33.0万人で前月から+1.3万人増加し、2カ月ぶりの悪化であった。

7月の全国の完全失業率(季節調整値)は2.8%と、こちらも前月比横ばい。全国の完全失業者数(季節調整値)は190万人で前月から+1万人増加した。理由別にみると、「非自発的な離職」は同+1万人増加、「自発的な離職(自

己都合)」が同+4万人増加、「新たに求職」は-6万人減少していた。

完全失業率の推移(2010年1月~2017年7月)



(出所) 総務省「労働力調査」

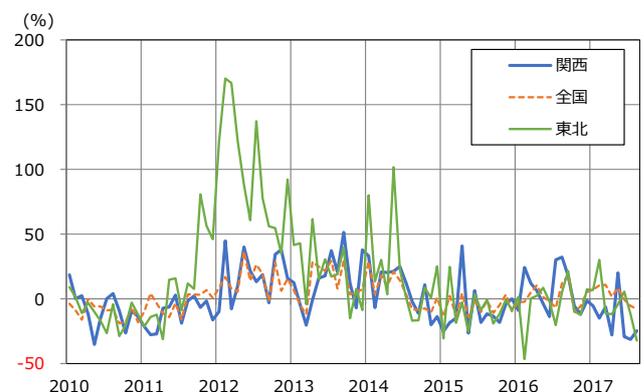
## 【公共投資】

### (1) 公共工事請負金額

関西8月の公共工事請負金額は1,027億円と前年同月比-24.7%と3カ月連続の減少。全国は1兆1,494億円と同-7.9%と3カ月連続の減少。東北も1,525億円と同-32.2%と大幅減少し、2カ月連続の減少であった。

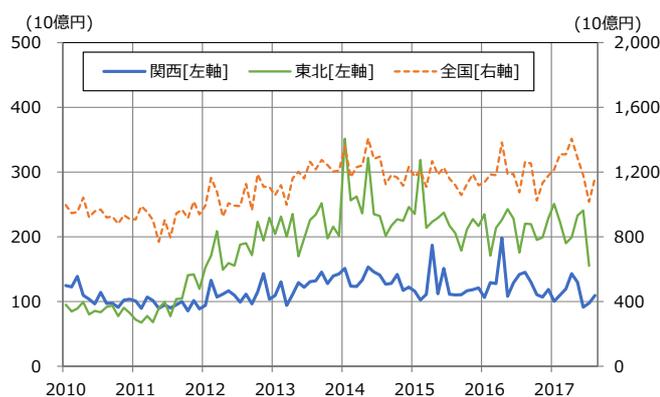
季節調整値(APIR 推計)で見ると、関西は前月比+12.0%となり、2カ月連続の増加。全国は同+14.5%と4カ月ぶりの増加となった。今後補正予算の効果剥落が懸念される。

公共工事請負金額の推移(2010年1月~2017年8月)



(出所) 東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

地域別公共工事請負金額の推移(2010年1月～2017年8月)



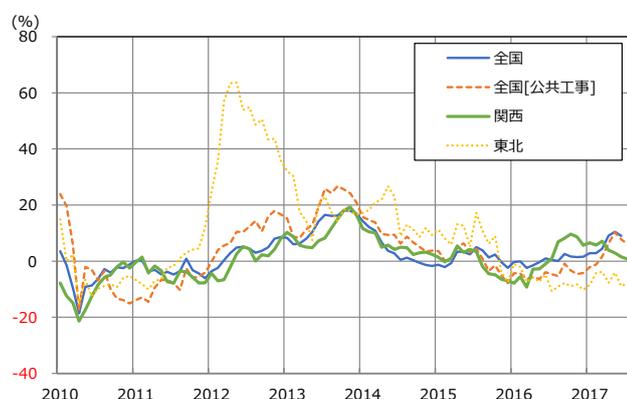
(出所)東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

## (2) 建設工事

関西7月の建設工事出来高は5,003億円となり、前年同月比+0.8%と13カ月連続の増加。東北については4,565億円となり、同-7.9%と21カ月連続の減少であった。

全国7月の建設工事出来高は4兆2,412億円となり、前年同月比+7.5%と14カ月連続の増加。うち、公共工事は1兆5,684億円で同+6.1%と、5カ月連続の増加。関西の建設工事は、全国と異なりプラス幅は縮小している。

建設工事出来高の推移(2010年1月～2017年7月)



(注) 2016年4月分より新推計に基づく出来高の参考値を反映。

(出所)国土交通省「建設総合統計」

## 【関空モニター】

### (1) 訪日外客数トレンド

8月の関空への訪日外客数は61万6,020人となり、前年同月比+18.7%と6カ月連続で増加した。また、5カ月連続で2桁増が続いている。出国外国人数は65万4,160人と同

+18.0%増加しており、外国人旅客総合数(出入国合計)は127万180人と同+18.3%増加した。

また、出国日本人数は35万3,100人で、前年同月比+3.7%と4カ月連続で増加した。訪日外客数、出国日本人数ともに増加が続いている。

訪日外客数と出国日本人数の推移(2012年1月～2017年8月)



(出所)一般財団法人関西空港調査会「KANSAI 空港レビュー」

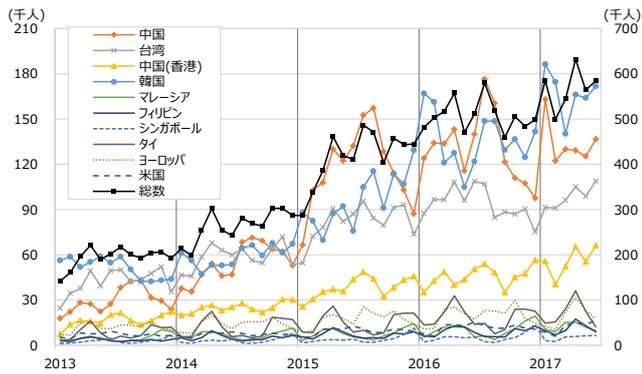
### (2) 地域別訪日外客数

訪日外客数を地域別にみると、6月は韓国からの入国者数が17万1,694人と最も多く、前年同月比+41.0%と2014年7月以来36カ月連続のプラスとなった。次いで、中国(香港除く)が13万6,562人と2カ月ぶりのマイナス(同-2.4%)。台湾が10万8,710人と、2カ月連続の小幅プラス(同+0.1%)。また、中国(香港)が6万6,047人と4カ月連続のプラス(同+30.9%)であった。韓国や香港を中心とした増便が旅客数の増加をもたらしている。

他のアジア各国からの入国者数は、タイが1万2,198人(前年同月比-11.6%)、マレーシアが9,602人(同+74.4%)、フィリピンが8,907人(同+4.4%)、シンガポールが6,450人(同+18.5%)となった。

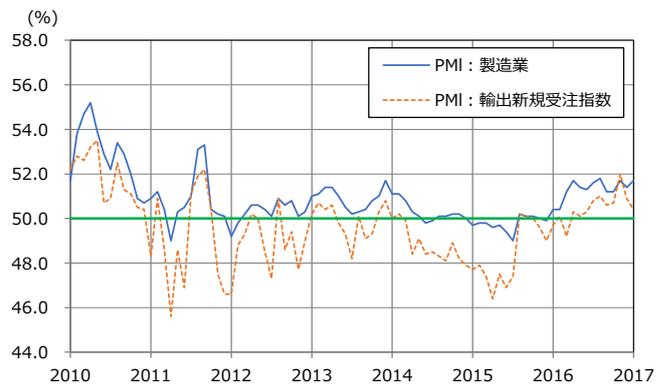
他地域を見ると、ヨーロッパが1万7,363人(前年同月比+1.0%)、米国が1万6,374人(同+6.6%)であった。

地域別訪日外客数(右軸：総数、左軸：各国、2017年6月まで)



(出所) 法務省「出入国管理統計」

製造業購買担当者景況指数(2010年1月～2017年8月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

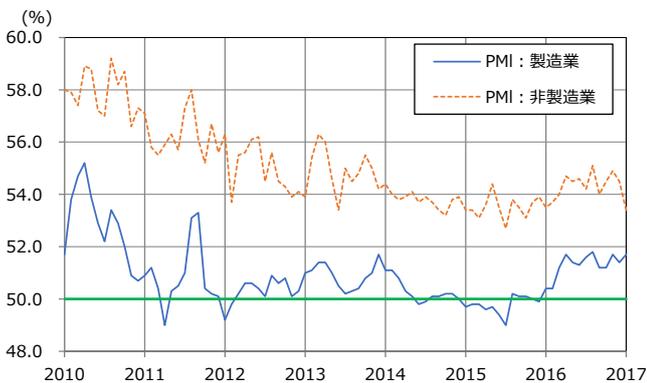
## 【中国景気モニター】

### (1) センチメント

8月の製造業購買担当者景況指数(PMI)は51.7となり、前月から+0.3ポイント上昇し、2カ月ぶりの改善であった。また、2016年8月以降、13カ月連続で景気分岐点である50を上回る状態が続いている。一方、非製造業購買担当者景況指数は53.4となり、前月から-1.1ポイント下落し、2カ月連続のマイナスとなった。

製造業PMIのうち、生産指数は54.1となり、前月比+0.6ポイントと、2カ月ぶりの上昇。一方、輸出新規受注指数は50.4となり、同-0.5ポイントと2カ月連続の下落。雇用指数は49.1となり、同-0.1ポイントと2カ月ぶりに下落した。

製造業・非製造業購買担当者景況指数(2010年1月～2017年8月)



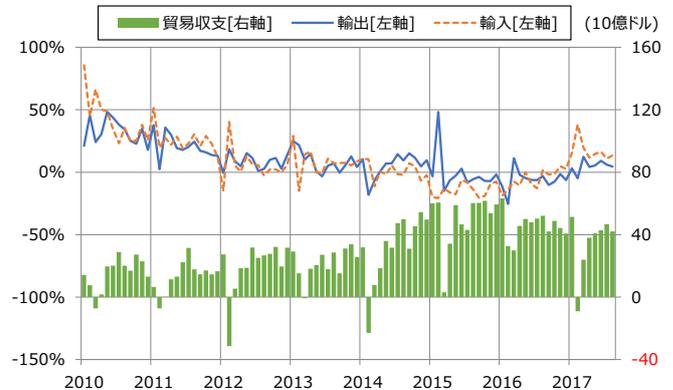
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

### (2) 貿易動向

8月の貿易収支は+419.9億ドルとなった。黒字幅は前年同月より-100.6億ドル縮小し、貿易収支は13カ月連続で減少が続いている。うち、輸出額(速報値、ドル・ベース)は1,992.3億ドルとなり、前年同月比+4.5%と6カ月連続の増加。輸入額は1,572.4億ドルとなり、同+13.5%と10カ月連続で増加した。

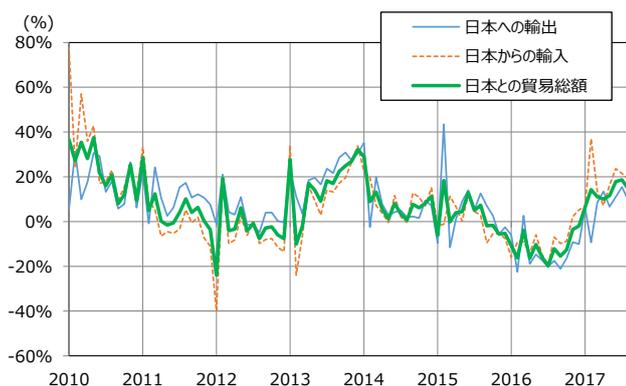
また、対日貿易収支は-30.8億ドルとなり、7カ月連続の赤字となった。対日輸出額は111.6億ドルとなり、前年同月比+1.1%と6カ月連続の増加。一方、対日輸入額は142.4億ドルとなり、同+9.7%と13カ月連続で増加した。なお、円ベースでみると、対日輸出額は同+9.7%と6カ月連続の増加。また、対日輸入額は同+19.0%と、10カ月連続の増加であった。

中国の貿易動向(ドル・ベース, 2010年1月～2017年8月)



(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

日本との貿易(円ベース, 2010年1月~2017年8月)



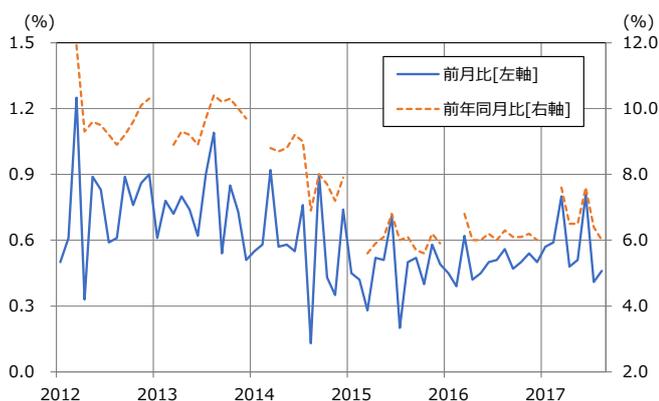
(出所) 中国税関; CEIC データベース; APIR 計算

### (3) 工業生産

8月の工業生産は前月比+0.46%となり、伸びは前月から+0.05%ポイント上昇し、2カ月ぶりに加速した。また、前年同月比では+6.0%と、前月から-0.4%ポイント低下し、2カ月連続の減速となった。

産業別に見ると、自動車製造業(前年同月比+14.5%)、医薬製造業(同+11.6%)、パソコン・通信設備製造業(同+13.0%)、電気機械・機材製造業(同+12.6%)などが高い伸びを示す一方で、鉄鋼などの精錬・圧延加工業(同+0.9%)、非金属鉱物製品製造業(同+1.3%)、有色金属圧延加工業(同+0.4%)などは、比較的低調な伸びにとどまった。

工業生産指数(2012年1月~2017年8月)



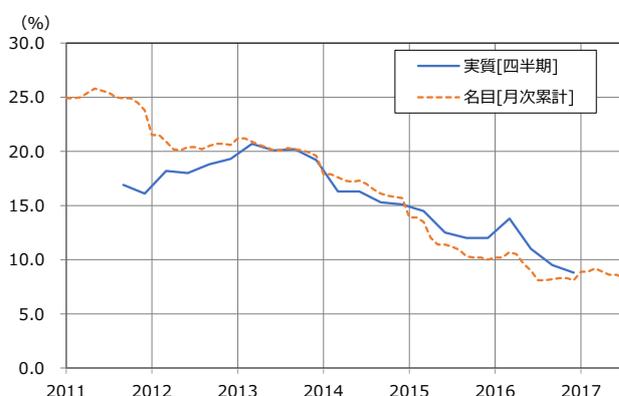
(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

### (4) 固定資産投資

1-8月期の(累積)固定資産投資(名目)は前年同月比+7.8%となり、1-7月期より-0.5%低下し、2カ月連続で減速した。

産業別に見ると、第1次産業は前年同月比+12.2%、伸びは前月より-2.2%ポイント下落した(5カ月連続)。第2次産業は同+3.2%となったものの、伸びは同-0.2%ポイント下落(2カ月連続)。第3次産業は同+10.6%と、前月から-0.7%下落した(2カ月ぶり)。

固定資産投資(累積伸び率, 2011年1月~2017年8月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

### (5) 消費

8月の社会消費品小売総額(名目)は前年同月比+10.1%となり、伸びは前月から-0.3%ポイント下落し、2カ月連続の減速。一方、社会消費品小売総額の実質値(APIR 推計)をみると、伸びは同+9.0%となり、前月から-0.7%ポイント低下し、2カ月連続で減速した。

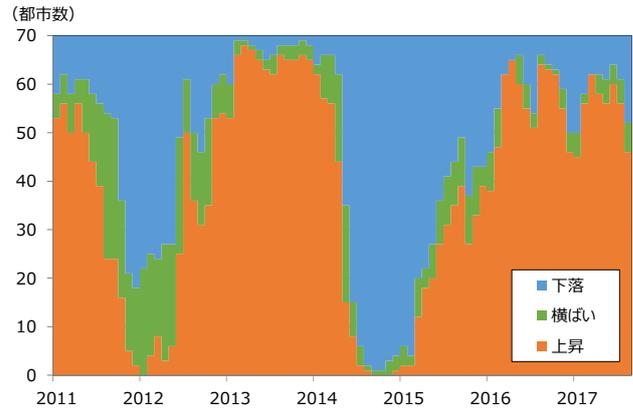
社会消費品小売総額(2011年1月～2017年8月)



(注) APIR 値は小売価格指数を用いて計算した値

(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

新築住宅価格の主要都市集計(2011年1月～2017年8月)

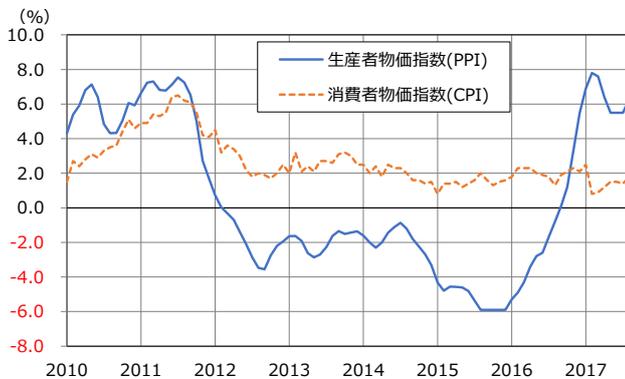


(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

### (6) 物価水準

8月の消費者物価指数(CPI)は前年同月比+1.8%で、前月から+0.4%と、2カ月ぶりの上昇。また、生産者物価指数(PPI)は同+6.3%となり、前月より+0.8%と、12カ月連続で上昇が続いている。

消費者物価指数・生産者物価指数(2010年1月～2017年8月)



(出所) 中国国家统计局; CEIC データベース

### (7) 不動産市場

8月の不動産市場は前月より低調であった。不動産価格(新築住宅価格)をみると、中国主要70都市のうち、46都市で前月から上昇したが、前月と比較すると、上昇した都市数が10都市減少した。一方、18都市で価格が前月から下落した。前月と比較すると、下落した都市数は9都市増加した。また、横ばいが6都市(前月5都市)であった。

Contact : 木下祐輔・生田祐介・Cao Thi Khanh Nguyet

Tel. 06-6485-7694,

E-mail. contact@apir.or.jp

[主要月次統計]

月次統計	16/8M	16/9M	16/10M	16/11M	16/12M	17/1M	17/2M	17/3M	17/4M	17/5M	17/6M	17/7M	17/8M
景況感													
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	45.6	44.7	47.3	52.1	54.4	50.9	50.1	48.3	47.9	50.1	51.7	52.1	50.6
[関西]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)													
[関西]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	48.4	49.4	48.7	51.0	50.0	49.8	50.6	48.6	49.7	51.5	51.9	49.2	50.0
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、季節調整値)	46.0	46.3	48.4	51.4	51.4	49.8	48.6	47.4	48.1	48.6	50.0	49.7	49.7
[全国]景気ウォッチャー調査(現状DI、家計)													
[全国]景気ウォッチャー調査(先行き、季節調整値)	48.6	49.4	50.3	51.3	50.9	49.4	50.6	48.1	48.8	49.6	50.5	50.3	51.1
消費者心理・小売													
[関西]消費者態度指数(原数値)	41.9	42.6	41.3	39.7	41.3	42.2	41.7	43.1	43.1	43.0	43.2	43.2	43.2
[関西]「暮らし向き」(原数値)	41.1	41.9	40.3	38.0	39.5	41.4	40.2	41.4	41.2	42.0	41.3	41.0	41.0
[関西]「収入の増え方」(原数値)	40.8	41.7	39.9	39.6	39.2	40.5	39.7	41.0	41.4	42.4	41.6	41.2	41.8
[関西]「雇用環境」(原数値)	43.8	44.6	43.2	41.1	44.4	44.7	44.8	46.9	47.9	46.4	47.9	47.6	47.6
[関西]「耐久消費財の買い時判断」(原数値)	41.9	42.1	41.7	39.9	42.1	42.3	42.2	42.9	41.8	41.3	41.8	42.9	42.5
[全国]消費者態度指数(季節調整値)	42.0	42.8	42.4	41.1	43.0	43.1	43.2	43.9	43.2	43.6	43.3	43.8	43.3
[関西]乗用車新規登録届出台数(前年同月比%)													
[関西]家電販売額(前年同月比%)													
[関西]大型小売店販売額(10億円)	302.8	284.2	311.0	323.8	406.5	330.9	286.6	313.8	304.4	309.0	304.9	339.1	UN
[関西]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-4.0	-4.6	-1.7	-1.0	-1.4	-0.6	-1.2	-1.4	0.4	-0.5	0.3	-0.1	UN
[全国]大型小売店販売額(10億円)	1,554.0	1,470.5	1,596.6	1,647.9	2,067.6	1,674.3	1,449.3	1,631.1	1,558.3	1,588.1	1,569.4	1,717.9	UN
[全国]大型小売店販売額(前年同月比%、全店)	-3.2	-2.7	-0.7	-0.1	-1.2	-1.0	-2.6	-0.9	0.8	-0.6	0.1	-0.2	UN
住宅・建設													
[関西]新設住宅着工(戸数)	11,580	11,435	12,346	12,257	11,079	11,409	10,639	11,795	11,812	11,115	12,002	12,601	UN
[関西]新設住宅着工(前年同月比%)	-7.3	-2.2	-4.1	3.2	0.5	7.8	-4.0	-0.4	-9.5	4.1	-5.4	-3.3	UN
[全国]新設住宅着工(戸数)	82,242	85,622	87,707	85,051	78,406	76,491	70,912	75,887	83,979	78,481	87,456	83,234	UN
[全国]新設住宅着工(前年同月比%)	2.5	10.0	13.7	6.7	3.9	12.8	-2.6	0.2	1.9	-0.3	1.7	-2.3	UN
[関西]マンション契約率(季節調整値)	73.8	69.1	70.9	73.7	72.7	81.2	76.5	70.9	78.3	76.4	77.9	70.2	79.8
[関西]マンション契約率(原数値)	73.8	68.1	71.8	75.4	69.2	75.1	74.5	73.3	78.2	79.9	80.2	73.6	80.0
[全国]マンション契約率(季節調整値)	68.9	73.2	64.0	61.3	79.6	63.7	67.2	64.0	66.5	79.3	65.0	67.4	69.8
[全国]マンション契約率(原数値)	66.6	72.0	61.6	62.5	76.6	61.6	68.4	66.2	66.3	79.9	67.2	71.9	68.2
[関西]公共工事前払保証額(10億円)	136.4	151.7	116.3	75.4	95.8	60.9	68.1	118.1	201.8	147.3	122.4	120.3	102.7
[関西]公共工事前払保証額(前年同月比%)	32.2	18.0	-5.5	-11.7	-1.5	-5.4	-14.9	-6.2	-27.8	20.0	-29.2	-31.3	-24.7
[全国]公共工事前払保証額(10億円)	1,247.3	1,471.6	1,127.3	822.0	851.4	699.7	769.3	1,485.9	2,064.6	1,242.1	1,518.5	1,288.8	1,149.4
[全国]公共工事前払保証額(前年同月比%)	12.7	18.1	-10.0	-5.7	5.3	7.1	10.4	10.9	1.7	8.5	-0.6	-5.4	-7.9
[関西]建設工事(総合、10億円)	530.6	551.5	580.6	597.5	599.1	589.8	583.1	557.2	470.9	4,651.4	483.7	500.3	UN
[関西]建設工事(総合、前年同月比%)	6.9	8.2	9.6	8.7	5.7	6.6	5.7	7.1	3.9	3.0	1.5	0.8	UN
[全国]建設工事(総合、10億円)	4,185.3	4,503.7	4,704.9	4,767.6	4,795.4	4,727.3	4,636.8	4,607.2	3,902.3	3,903.1	4,095.9	4,241.2	UN
[全国]建設工事(総合、前年同月比%)	0.0	2.6	1.6	1.5	1.6	2.8	2.9	4.5	9.1	10.5	9.0	7.5	UN
[全国]建設工事(公共工事、10億円)	1,626.0	1,849.8	1,999.0	2,034.4	2,068.4	2,049.1	2,008.4	2,036.8	1,450.6	1,428.6	1,505.1	1,568.4	UN
[全国]建設工事(公共工事、前年同月比%)	-5.3	-0.9	-3.3	-4.6	-4.3	-2.1	-1.2	1.7	6.4	10.3	7.7	6.1	UN
生産													
[関西]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	104.0	106.5	105.5	107.6	109.5	105.8	108.0	107.7	110.2	105.7	108.1	107.1	UN
[関西]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.7	2.4	-0.9	2.0	1.8	-3.4	2.1	-0.3	2.3	-4.1	2.3	-0.9	UN
[関西]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	2.8	4.4	1.3	9.1	6.0	3.7	4.2	0.9	4.6	3.8	5.4	2.6	UN
[関西]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	1.3	2.4	-1.7	-7.1	-5.1	-2.7	-2.6	-1.0	3.0	3.0	1.4	3.7	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	101.6	103.7	103.9	106.1	106.3	101.3	103.6	105.2	106.2	103.3	106.0	104.0	UN
[関西]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	0.2	2.1	0.2	2.1	0.2	-4.7	2.3	1.5	1.0	-2.7	2.6	-1.9	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	119.7	120.8	115.8	110.0	112.1	115.1	115.5	117.5	122.9	124.3	122.0	122.9	UN
[関西]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.9	0.9	-4.1	-5.0	1.9	2.7	0.3	1.7	4.6	1.1	-1.9	0.7	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、10年=100)	98.3	98.6	98.9	99.9	100.6	98.5	101.7	99.8	103.8	100.1	102.3	101.5	UN
[全国]鉱工業生産(季節調整値、前月比)	1.3	0.3	0.3	1.0	0.7	-2.1	3.2	-1.9	4.0	-3.6	2.2	-0.8	UN
[全国]「出荷指数」(原数値、前年同月比%)	1.8	0.8	-1.8	5.0	2.4	4.2	3.7	3.5	4.9	5.4	5.3	4.1	UN
[全国]「在庫指数」(原数値、前年同月比%)	-2.1	-2.7	-3.6	-5.5	-5.3	-5.0	-3.9	-4.0	-1.1	-1.3	-2.9	-2.3	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、10年=100)	96.2	96.8	97.9	98.9	98.9	97.8	99.2	98.4	101.1	98.2	100.7	100.0	UN
[全国]「出荷指数」(季節調整値、前月比)	0.2	0.6	1.1	1.0	0.0	-1.1	1.4	-0.8	2.7	-2.9	2.5	-0.7	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、10年=100)	110.5	109.9	108.5	106.6	107.3	107.4	108.1	109.7	111.3	111.3	109.1	107.9	UN
[全国]「在庫指数」(季節調整値、前月比)	0.0	-0.5	-1.3	-1.8	0.7	0.1	0.7	1.5	1.5	0.0	-2.0	-1.1	UN
労働													
[関西]現金給与総額(2府4県、前年同月比%)	-0.4	-0.1	-0.3	-0.6	1.2	0.2	-0.1	0.6	0.4	0.7	1.9	UN	UN
[関西]現金給与総額(2府1県、前年同月比%)	-0.5	-0.4	-0.5	-0.3	0.6	-0.1	-0.4	0.5	-0.1	0.6	1.6	UN	UN
[全国]現金給与総額(前年同月比%)	0.0	0.0	0.1	0.5	0.5	0.3	0.4	0.0	0.5	0.6	0.4	-0.6	UN
[関西]完全失業率(季節調整値)	3.8	3.6	3.3	3.3	3.3	2.7	3.2	3.2	3.0	3.3	3.0	3.0	UN
[全国]完全失業率(原数値)	4.1	3.8	3.3	3.0	2.9	2.8	3.3	3.2	2.9	3.2	3.0	3.1	UN
[全国]完全失業率(季節調整値)	3.1	3.0	3.0	3.1	3.1	3.0	2.8	2.8	2.8	3.1	2.8	2.8	UN
[関西]新規求人倍率(季節調整値)	2.01	2.06	2.02	2.12	2.14	2.05	2.08	2.04	2.11	2.39	2.20	2.23	UN
[全国]新規求人倍率(季節調整値)	2.07	2.10	2.11	2.15	2.19	2.13	2.12	2.13	2.13	2.31	2.25	2.27	UN
[関西]有効求人倍率(季節調整値)	1.28	1.29	1.31	1.33	1.34	1.34	1.35	1.36	1.41	1.44	1.46	1.47	UN
[全国]有効求人倍率(季節調整値)	1.37	1.38	1.40	1.41	1.43	1.43	1.43	1.45	1.48	1.49	1.51	1.52	UN
国際貿易													
[関西]純輸出(10億円)	95.1	154.4	198.9	75.7	289.0	-193.8	356.5	222.8	175.0	92.8	170.1	137.0	163.0
[関西]輸出(10億円)	1,177.8	1,263.7	1,245.9	1,251.1	1,418.9	1,090.9	1,353.4	1,476.8	1,335.6	1,239.8	1,383.9	1,329.4	1,382.2
[関西]輸出(前年同月比%)	-9.4	-8.9	-10.9	1.1	6.0	-1.7	12.8	10.4	5.9	12.4	8.0	10.8	17.4
[関西]輸入(10億円)	1,082.7	1,109.3	1,047.0	1,175.4	1,129.9	1,284.7	996.9	1,254.0	1,160.6	1,146.8	1,213.2	1,192.4	1,219.2
[関西]輸入(前年同月比%)	-12.2	-11.9	-19.3	-7.2	-3.6	9.6	-6.0	12.3	11.2	13.4	14.4	16.7	12.6

注：鉱工業生産 輸送機械工業は船舶・鉄道車両除く。

## Release Calendar for August/September

Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
28-Aug	29-Aug 全国貿易統計 (7月:速速) 商業動態調査 (7月:速報値) 求人倍率(7月) 完全失業率(7月)	30-Aug 全国鉱工業生産指数 (7月:速報値) 新設住宅着工(7月)	31-Aug 中国製造業 PMI (8月)	1-Sep 消費動向調査(8月)
4-Sep	5-Sep	6-Sep 毎月勤労統計 (7月:速報値)	7-Sep	8-Sep 景気ウォッチャー調査 (8月) 中国輸出入 (8月:速報値)
11-Sep 近畿鉱工業生産指数 (7月速報) 近畿貿易統計 (6月確報) 近畿貿易統計 (7月速速)	12-Sep 商業動態調査 (7月:確報値)	13-Sep 全国鉱工業生産指数 (7月:確報値)	14-Sep マンション契約率 (8月) 中国固定資産投資 (8月) 中国工業生産(8月) 中国消費小売総額 (8月) 中国不動産市場 (8月)	15-Sep 建設総合統計(7月) 公共工事前払保証額 統計(8月)
18-Sep	19-Sep	20-Sep 全国貿易統計 (8月:速報) 出入国者数(8月) 近畿貿易統計 (7月速報)	21-Sep	22-Sep 毎月勤労統計 (7月:確報値)
25-Sep 出入国管理統計(7月) 中国輸出入 (8月:確定値)	26-Sep 近畿鉱工業生産指数 (7月確報)	27-Sep	28-Sep 商業動態調査 (8月:速報値) 全国貿易統計 (8月:速速)	29-Sep 全国鉱工業生産指数 (8月:速報値) 新設住宅着工(8月) 求人倍率(8月) 完全失業率(8月)